

関西医科大学 広報



ドラッグ・ラグ/ドラッグ・ロス解消に向け「NEXT Oncology KMU JAPAN」設立へ

アジア初の 国際がん新薬治験拠点を新設

Vol.72

CONTENTS

法人：理事長年頭所感

P.1

トピックス：NEXT Oncology KMU JAPAN
設立記者会見

P.10

トピックス：国際大学院入学式

P.10

大学：令和6年度「学生からの教育評価」

P.19

附属病院：いきいき健幸フェス

P.22

オール女性医師キャリアセンター：
医師のキャリアに関する講義

P.24

理事長年頭所感・学長、部署長挨拶

1月5日(月)16時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、およびくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「教育」「研究」「診療」「法人」についての本学の現状を説明。また令和10年に迎える創立100周年を見据え今後の計画や方針・目標を語りました。

また、理事長の年頭所感表明に続いて、枚方キャンパスでは副理事長、学長、附属病院長から、リハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、くずは病院においては、それぞれ学部長、病院長から挨拶がなされました。



挨拶する木梨学長



挨拶する澤田副理事長



挨拶する松田病院長



挨拶する飯田学部長



挨拶する杉浦病院長



挨拶する岡崎病院長



挨拶する高山病院長

大学・附属病院(枚方キャンパス)

枚方地区では年頭所感表明の後、枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂に会場を移して賀詞交換会が行われました。会場には法人・大学・附属病院から多数の教職員が集まり、新年をことほぎました。

木梨達雄学長の新年の挨拶では、医療界の厳しい経営環境の中にあってもたゆまぬ経営努力を続けることにより、豊かな研究環境がもたらされていることへの感謝が述べられ、教職員一同がこの環境を生かしてそれぞれの夢を実現してほしいとの願いが語られました。

続く澤田敏副理事長の新年の挨拶では、3年後の100周年に向け、別館建設などの事業などに一丸となって取り組んでほしいとの激励の言葉が述べられました。その後は、教職員一同の貢献を誇る附属病院松田公志病院長の発声により、乾杯が行われました。

その後会場では教職員が思い思いに歓談し、新年の喜びを分かち合っていました。

リハビリテーション学部(牧野キャンパス)

牧野キャンパスでは、学生食堂に教職員らが集合し、リハビリテーション学部飯田寛和学部長による新年の挨拶に耳を傾けました。飯田学部長は、「リハビリテーション学部として、卒業生を無事に輩出することができ、教職員の皆様の努力のおかげで満足すべき道をたどっていると感じる。今後も教育・研究に邁進していきたい。」と語りました。

総合医療センター

総合医療センター南館2階臨床講堂に総合医療センターと天満橋総合クリニックの責任者らが集合し、総合医療センター杉浦哲朗病院長による挨拶に耳を傾けました。杉浦病院長はスタッフへのねぎらいの言葉とともに、今年も目標達成に向けて各職種が専門性を活かして情報共有をしながら業務にあたっていただきたいと語りました。

香里病院

香里病院岡崎和一病院長から香里病院8階会議室に集まった教職員に向け年頭挨拶が行われ、歯科口腔外科や予防医療センターの開設、個室の改修など令和7年の実績を振り返りました。また、救急受入れ体制の強化に触れ、「市民に頼られる病院として機能を維持するために是非協力してほしい」と語りました。

くずは病院

くずは病院2階地域医療連携ラウンジにくずは病院各部署の責任者とくずは駅中健康・健診センター浦上昌也センター長らが参集し、くずは病院高山康夫病院長による挨拶が行われました。地域包括医療病棟・回復期リハビリ病棟をより充実させ、くずは駅中健康・健診センターとも協力しながらこれまで以上に発展していきたいと抱負を述べたほか、何よりも患者さん第一で今後もあたたかい対応を続けてほしいと集まった職員に語りました。

就 任 挨 拶

医学部内科学第一講座リウマチ・膠原病科（附属病院）担当診療教授 尾崎 吉郎



令和7年11月1日付で附属病院リウマチ・膠原病科の診療教授を拝命いたしました。枚方市を含む北河内二次医療圏は大阪市に次ぐ人口を擁し、多数のリウマチ性疾患の患者さんを抱えておりますが、重症病態の

膠原病・膠原病類縁疾患を診療できる医療機関は附属病院および本学医療センターのみであります。また、関節リウマチのようなCommonな疾患も、難治例に対してはJAK阻害薬や生物学的製剤などのやや使用に注意を要する薬剤が登場しているため、病診連携・病病連携のスムーズさが重要視されるようになっております。私は、附属病院開院からリウマチ・膠原病科での診療を継続させていただいており、地域の先生方との連携を深めてまいりました。今回診療教授を拝命するにあたり、多数の先生方の期待のお声もいただきました。より一層の深く緊密な連携を目指したく存じます。特に患者さんの多い関節リウマチ、および今ま

で対応の遅れていた乾癬性関節炎の治療にも積極的に取り組み、近隣の整形外科あるいは皮膚科の先生方との連携に取り組みたいと考えております。また、単純に治療成績の向上のみならず、患者さんのより良いQOLや、若年女性に多い疾患であることから妊娠・出産といったライフサイクルへの関与も目指し、関西医科大学附属病院の地域医療への貢献度を上げるべく努力いたします。皆様のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成5年3月	関西医科大学医学部 卒業
平成5年6月	関西医科大学附属病院 内科研修医
平成6年4月	関西医科大学附属病院 内科学第一講座入局
平成6年9月	三世会河内総合病院 内科医員
平成7年5月	田附興風会北野病院 内科研修医
平成12年10月	関西医科大学 内科学第一講座 助手
平成17年11月	関西医科大学 内科学第一講座 講師
平成18年1月	関西医科大学附属枚方病院 リウマチ・膠原病科 科長
平成20年11月	関西医科大学附属枚方病院 リウマチ・膠原病科 病院准教授
平成26年11月	関西医科大学 内科学第一講座 准教授
平成29年10月	関西医科大学附属病院 リウマチ・膠原病科 病院教授
令和7年11月	関西医科大学附属病院 リウマチ・膠原病科 診療教授

医学部脳神経外科学講座悪性脳腫瘍（附属病院）担当診療教授 松田 良介



令和8年1月1日付で、関西医科大学脳神経外科学講座の悪性脳腫瘍担当診療教授を拝命いたしました。微力ではございますが、脳神経外科学講座および関連診療科の発展に尽力する所存です。私が担当いたします

悪性脳腫瘍部門では、神経膠腫、転移性脳腫瘍、悪性リンパ腫などを中心とした脳実質内腫瘍の診療を担います。良性脳腫瘍では手術により治癒が期待できる症例も多い一方、悪性脳腫瘍では手術に加え、化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療が不可欠であり、多職種との緊密な連携が極めて重要です。また私が専門とする覚醒下手術は、言語・運動・感覚・視覚などの高次脳機能を温存しつつ腫瘍の最大限切除を目指す有用な術式です。前任施設では、麻酔科や言語聴覚士の先生方のご支援のもと、多くの症例に対し覚醒下手術を積極的に実施してまいりました。関西医科大学は術中神経モニタリングにおいても国内屈指の実績を有しており、本学の強みを最大限に活かしながら、覚

醒下手術と術中神経モニタリングを融合させ、難易度の高い脳腫瘍に対しても「脳機能温存」と「最大限摘出」の両立を図ってまいります。脳神経外科のみならず、他科の先生方ならびにコメディカルスタッフの皆様と協力し、患者様に選ばれる脳腫瘍診療拠点を目指して精進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成13年3月	奈良県立医科大学 卒業
平成13年4月	奈良県立医科大学附属病院 臨床研修医(脳神経外科)
平成13年11月	梶浦病院 研修医(脳神経外科)
平成14年3月	大阪警察病院 研修医(麻酔科)
平成14年7月	奈良県立奈良病院救命救急センター 臨床研修医
平成15年1月	大淀町立大淀病院 臨床研修医(脳神経外科)
平成19年3月	奈良県立医科大学大学院医学研究科(外科学Ⅱ専攻) 修了
平成19年4月	奈良県立医科大学附属病院 医員(脳神経外科)
平成20年10月	公立大学法人奈良県立医科大学 助教(脳神経外科)
平成21年2月	済生会中和病院 医員(脳神経外科)
平成22年1月	公立大学法人奈良県立医科大学 助教(脳神経外科)
平成23年7月	フランス：モンペリエ大学医学部附属Gui de Chauliac病院(客員研究員)
平成30年1月	公立大学法人奈良県立医科大学 学内講師(脳神経外科)
令和6年2月	公立大学法人奈良県立医科大学 講師(脳神経外科)
令和8年1月	関西医科大学医学部脳神経外科学講座悪性脳腫瘍(附属病院)担当診療教授

医学部麻酔科学講座腎疾患・移植（附属病院）担当診療教授 井口 直也



令和7年10月1日付で、関西医科大学医学部麻酔科学講座 診療教授を拝命いたしました。これまで大学病院および専門病院、基幹病院、市中病院において、麻酔・集中治療・急性期医療に幅広く携わり、重症患者

の管理を主要な臨床領域として経験を重ねてまいりました。その過程で新生児、妊産婦から高齢者まで、臓器移植を含む多様な周術期医療に携わってきました。高齢化や併存疾患の増加が予想されるなか、安全な麻酔を基盤とした質の高い周術期管理を提供し、本学の麻酔科診療を通じて患者・医療者に貢献してまいります。

研究においては、周術期や重症患者において発症頻度が高く、予後や医療者への負担に直結する病態である急性腎障害の早期診断・モニタリング・治療法の開発に長年取り組んでおります。こうした研究活動に加え、日々の臨床を通じて麻酔科のおもしろさや奥深さを若手医師に伝えるとともに、関西医科大学から急性腎障害の新規モニタリング・

治療法を世界に発信していきます。

教育においては、若手医師が臨床現場で確かな判断力と技能を身につけられるよう、学びやすい環境づくりを重視しています。どんな状況でも通用し、生涯にわたって活躍できる麻酔科医の育成に力を尽くしていく所存です。

関西医科大学の理念「慈仁心鏡」のもと、患者さんと医療者の双方にとって安全で信頼される麻酔科医療の実践に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成11年3月	鳥取大学医学部医学科 卒業
平成11年4月	大阪大学医学部附属病院麻酔科 医員(研修医)
平成12年7月	市立堺病院麻酔科 医員(研修医)
平成13年6月	大阪府立母子保健総合医療センター麻酔科 医員(レジデント)
平成14年6月	大阪大学医学部附属病院集中治療部 医員・助手
平成17年7月	国立循環器病センター集中治療部門 厚生労働技官(常勤医師)
平成19年4月	独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院麻酔科 医長
平成21年4月	大阪大学大学院医学系研究科先進心血管治療学寄附講座 助教
平成22年4月	大阪大学医学部附属病院 助教 集中治療部・麻酔科
平成27年10月	オーストラリア メルボルン大学フローリー研究所 客員研究員 オーストラリア オースティン病院 名誉研究員
平成30年10月	大阪大学大学院医学系研究科 麻酔科・集中治療部 助教
令和2年4月	大阪大学大学院医学系研究科 麻酔科 特任講師
令和7年10月	関西医科大学医学部麻酔科学講座 診療教授

医学部心臓血管外科学講座心臓外科（総合医療センター）担当診療教授 岡田 隆之



令和7年11月1日付で関西医科大学総合医療センター心臓外科の診療教授を拝命いたしました。

関西医科大学を卒業後、本学胸部心臓血管外科学講座に入局し、マレーシア国立循環器センターおよびドイツ・ハイデルベルク大学での臨床留学を経て、附属病院ならびに総合医療センターにおいて診療・教育・研究に携わってまいりました。現在は主として心臓弁膜症、冠動脈疾患、大動脈疾患などに対する外科治療を担当しております。

心臓血管外科領域では、低侵襲化を目指した小切開手術(MICS)や血管内治療を組み合わせたハイブリッド治療を導入し、患者さんの身体的・心理的負担を軽減するチーム医療を実践してまいります。一方で、心不全患者の急増が「心不全パンデミック」とも呼ばれる超高齢社会に直面しており、当センターにおいては早期診断から外科的介入、再入院予防までを地域医療と共に担う「次世代型ハートチーム」

を構築し、心不全医療を地域の先生方とともに進めていきたいと考えております。

教育面では、知識やシミュレーション教育・技術の修得にとどまらず、患者さんに寄り添い自ら考えて行動できる“良医”の育成に努めてまいります。研究面では、遺伝学・医用工学・再生医療・AIなどの融合により、個別化医療と予防医学への応用を目指し、臨床現場から新たなエビデンスを発信していきたいと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成11年3月	関西医科大学医学部 卒業
平成11年5月	関西医科大学胸部心臓血管外科学講座 入局
平成15年7月	マレーシア国立循環器センター 臨床留学
平成17年9月	関西医科大学医学部心臓血管外科学講座 助手
平成22年9月	ドイツ・ハイデルベルク大学心臓外科 臨床留学
平成26年4月	関西医科大学医学部心臓血管外科学講座 講師
令和4年4月	関西医科大学医学部心臓血管外科学講座 准教授
令和7年4月	関西医科大学総合医療センター心臓外科 診療部長
令和7年11月	関西医科大学総合医療センター心臓外科 診療教授

「NEXT Oncology KMU JAPAN」 設立記者会見

本学と米国NEXT Oncology社(全米トップクラスのがん新薬早期開発(Phase 1治験)専門の医療機関ネットワーク)が、がん新薬早期臨床開発に関する国際合弁事業契約を締結し、合同会社「NEXT Oncology KMU JAPAN」設立が決定したことに伴い、令和7年11月11日(火) 11時30分から附属病院13階講堂において、記者会見が実施されました。

会見は、齋藤貴徳産学知財・社会貢献担当副学長(整形外科学講座教授)の司会のもと進行。木梨達雄学長、松田公志病院長、米国NEXT Oncology社の設立者であるAnthony W. Tolcher医師(オンライン)による挨拶の後、附属病院国際がん新薬開発センター・新薬開発科清水俊雄教授が事業の概要と今後の展望を説明。「国内の患者さんに新しい有効な薬をいち早く届けたい」と語り

ました。

今回のアジア初となる国際がん新薬治験拠点新設は、日本国内の患者さんが新薬開発に早期から参加できる体制を整え「ドラッグ・ラグ/ドラッグ・ロス」の解消を目指すもので、国内での速やかな新薬承認につながる可能性が期待されます。



事業の概要を説明する清水教授

令和8年度入職予定者（事務員）内定式

令和7年10月1日(水) 14時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、神崎秀陽常務理事が臨席して「令和8年度入職予定者内定式」が挙行されました。この日は令和8年度入職予定の事務員内定者12名が出席。神崎常務理事による挨拶の後、内定証書が内定者一人ひとりに手渡されました。その後、内定者は一人ずつ自己紹介と入職後の決意表明を行い、不安と期待の中、本学で働くことへの自身の思いを語りました。



内定証書を受け取る内定者

国際大学院入学式

令和7年10月6日(月) 15時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において「2025年度国際大学院入学式」が挙行されました。

入学式には木梨達雄学長をはじめ、大学院医学研究科金子一成研究科長・副学長、岡田英孝副学長、大学院医学研究科教務部人見浩史部長、同中邨智之副部長、国際化推進センター友田幸一センター長、同ラウル・ブルーヘルマンズ副センター長や指導教員らが列席し、7名の入学を歓迎しました。

新入生自己紹介では、各新入生が日本での研究活動へ

の意気込みや関心のある研究分野について述べました。



入学生と出席者の集合写真

医

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

本学は昭和3年大阪女子高等医学専門学校の設立以来、日本をリードする医科大学を目指し着実に発展を続けてまいりました。現在、医学部・看護学部・リハビリテーション学部を擁する医療系複合大学として、次代へ向けてさまざまな事業が計画されております。学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様からの格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆募金室では、個人・法人からのご寄付と遺贈寄付をお受けしております。

個人・法人からのご寄付

募集要項	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和8年3月末日まで
税制上の優遇措置	
個人	所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます。
法人	受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます。 ※制度についてご説明いたしますので、ご検討の際は募金室へご連絡ください。

募金のお手続き

申込書提出

募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。
・申込書はホームページに掲載しております。

お振込み

募金専用口座へお振込みください。
・三菱UFJ 銀行 守口支店 普通 1312088
・りそな銀行 守口支店 普通 0588884

確定申告

確定申告いただくと所得税が減税されます。

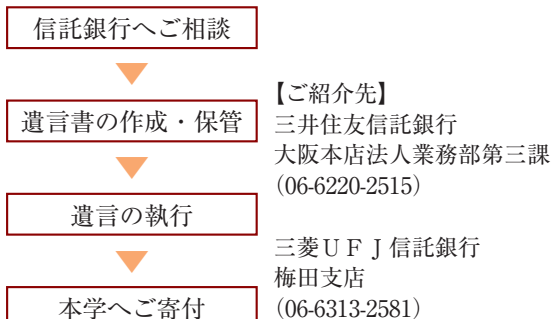
なお、この募金の応募は任意です。

遺贈寄付

●遺言によるご寄付

遺言によって本学に寄付する制度です。
・ご遺言を確実に執行するために、信託銀行をご紹介します。

遺言によるご寄付の流れ

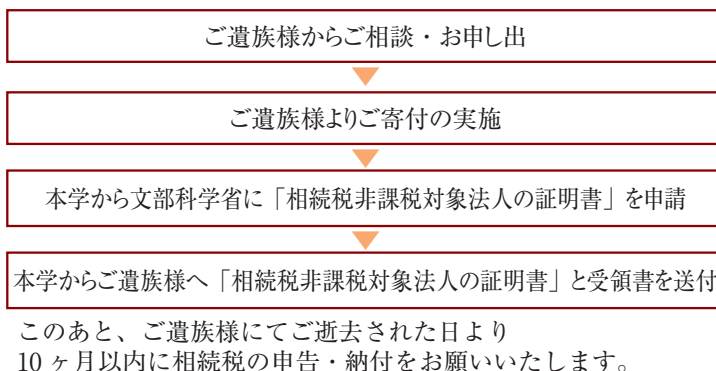


信託銀行を利用して遺言信託をする場合、
信託銀行へ手数料が発生します。

●相続財産によるご寄付

故人様のご遺志により相続人様が、相続財産から本学に寄付する制度です。
・本学にご寄付された金額を申告により相続税非課税にできます。
・現預金のみお受けしております。

相続財産によるご寄付の流れ



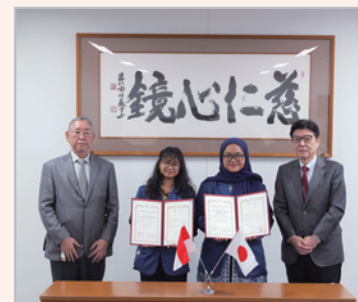
お問い合わせ先

法人事務局募金室
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号
TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344 メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp
ホームページ：https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	10月1日	事務職内定式
	11月11日	NEXT Oncology KMU JAPAN 設立記者会見
	12月18日	枚方市ネーミングライツ契約締結式
	1月5日	理事長年頭所感・部署長挨拶
大学	10月6日	国際大学院入学式
	10月8日	Campus Bio-Medico University of Rome 総長らが来訪
	10月16日	実験動物慰霊祭
	10月10日、17日、24日	ラポールひらかた健康体操教室での講演
	10月17日	学長賞授与式
	10月19日	慈仁会全国懇談会
	10月26日	作業療法学科オープンラボ
	10月29日	解剖体慰霊碑供養
	11月1日、2日	学園祭
	11月1日	看護学部第2回ホームカミングデー
	11月1日	看護学部保護者懇談会
	11月1日	リハビリテーション学部保護者懇談会
	11月5日	リハビリテーション学部防災訓練
	11月10日	看護学部災害シミュレーション演習
	11月14日	がん教育講演会
	11月21日	アイルランガ大学修了証贈呈
	11月27日	医療ニーズ発表会
	12月1日	白衣授与式
	12月1日	学生からの教育評価に基づく表彰式
	12月6日	子ども大学探検隊
	12月14日	看護学部入学前ガイダンス
	12月17日	国際交流フォーラム
	12月20日	医学教育ワークショップ
	12月20日	看護学部地元創成看護論実習Ⅳ報告会
	12月25日	常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業
附属病院	10月4日	市民公開講座
	10月18日	いきいき健幸フェス
	11月15日	災害訓練
	12月17日	小児医療センタークリスマス会
総合医療センター	10月31日	ミニ市民健康講座
	11月1日	市民健康講座
	11月15日	災害訓練
	11月15日	糖尿病デーフェスタ
香里病院	10月19日	日曜乳がん検診
	11月15日	災害訓練
オール女性医師キャリアセンター	11月19日	医師のキャリアに関する講義
看護キャリア開発センター	10月1日	第9回リカレントスクール入校式
	12月3日	第9回リカレントスクール修了式
	12月20日	看護職のための生涯学習講演会



アイルランガ大学修了証贈呈



看護学部入学前ガイダンス



国際交流フォーラム



医学教育ワークショップ



看護職のための生涯学習講演会

学長賞授与式

令和7年10月17日(金) 17時30分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、令和6年度分学長賞授与式が執り行われました。木梨達雄学長をはじめとする教員らが参加。課外活動で功績のあったクラブや学生に対し、木梨学長から表彰状と副賞が贈られました。

挨拶に立った木梨学長は、学業との両立が難しい中で

クラブ活動賞	柏櫓 裕太 さん(医学部5学年) 三宅 真由さん(リハビリテーション学部2年次) 女子バスケットボール部 陸上競技部 バレーボール部
社会活動賞	吉松 和さん(看護学部3年次)

活躍した功績を称えるとともに、今後さらに学生の社会貢献活動が増えることへの期待を述べました。



学長賞受賞者

白衣授与式

令和7年12月1日(月) 15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、令和7年度白衣授与式が執り行われました。これは臨床実習前OSCEおよびCBTに合格して5学年に進級し、臨床実習を開始する学生に対し、白衣を授与することによって医師を目指す者としての自覚を促すことを目的としたものです。医学部金子一成学部長・副学長、同教務部岡田英孝部長・副学長の挨拶に続き、実習先となる附属病院の谷川昇副病院長、総合医療センターの杉浦哲朗病院長から訓辞が行われ、学生たち一人ひとりに慈仁会から寄贈された白衣が授与されました。学生代表による誓いの言葉が述べられ、式後には真新しい白衣に身を包み晴れやかな表情で集合写真

に収まる姿がありました。



学生代表による挨拶

医

関西医科大学学園祭2025

令和7年11月1日(土)・2日(日)の両日、「BLOOM」をテーマにした関西医科大学学園祭2025が枚方キャンパスにおいて開催されました。開催前日の雨もあがり、両日とも多くの方が来場。医学部棟加多乃講堂や中庭に設置されたステージでは、軽音楽部やフォークソング部の演奏、ダンス部やコールクライスによる公演、タレントによるトークショーなど、2日間にわたって多くの企画が繰り広げられたほか、中庭には各クラブや留学生による模擬店が出店されました。

“学生一人一人が色とりどりの花を咲かせることで学園祭を鮮やかに彩り、枚方を華やかに盛り上げていく”という意味が込められた今年のテーマの通り、各団体の

個性が発揮された多様な企画で大いに盛り上りをみせました。



フォークソング部によるステージ

令和7年度解剖体慰霊碑供養

医

令和7年10月29日(水) 11時から建仁寺塔頭正伝永源院(京都市東山区)において、令和7年度解剖体慰霊碑供養が営まれました。これは、自らの遺志と無条件・無報酬の篤志をもって、医学の発展のためにご遺体を提供された御霊を供養する儀式で、白菊会役員、木梨達雄学長をはじめとする教職員が参列。僧侶による読経が捧げられ、参列者は哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。



僧侶と参列者による慰霊碑の供養

第51回関西医科大学実験動物慰霊祭

医

令和7年10月16日(木) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第51回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、木梨達雄学長や動物実験委員会中邨智之委員長(医学部薬理学講座教授)をはじめ、動物実験に関わる教職員等が列席しました。参加者全員で黙とうを捧げたのち、中邨委員長が、これまでの医学の発展における実験動物の存在意義と重要性、そして今後も社会的に適切に動物実験を行っていく必要性を述べ、慰霊の辞を捧げました。その後も研究者や教職員が次々に慰霊に訪れ、尊い命を捧げた実験動物の冥福を祈りながら菊の花を手向けました。



慰霊の辞を捧げる中邨委員長

がん教育講演会

令和7年11月14日(金) 14時30分から交野市内の中学校において、附属病院看護部文岡礼雅看護師(がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師)が全校生徒約470人を対象にがんについての出張授業を行いました。これは大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動としての取り組みで、がんに関する知見の社会還元を目的としたものです。授業では、がんが発生する仕組み、治療方法、緩和ケアなどについてイラストを交えながらわかりやすく解説。中学校教育においてがん教育が必修化されるなど関心が高まる中、がんに関する知識の充実が図られる良い機会となりました。



中継システムで講演を聞く生徒

研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

炎症性腸患者における臨床研究 — 患者さんがハッピーな生活を送ることを目指して —

医学部内科学第三講座 長沼 誠 教授

■先生が取り組まれている研究テーマについて教えてください。

炎症性腸疾患 (IBD) は、血便・下痢・腹痛を主訴に若年で発症し慢性に経過する疾患で、主に大腸に炎症を起こす潰瘍性大腸炎と、消化管全体に全層性の炎症を生じるクローン病が含まれます。遺伝的素因、環境因子、免疫異常などが関与するとされますが、根本原因は未解明で国の難病に指定されています。治療の進歩により多くの患者さんが通常の生活を送れるようになりましたが、学業・就業・家庭生活などで生活の質が損なわれる方も少なくありません。私は、こうした IBD 患者さんの生活の質の向上を目指し、診療と研究に取り組んでいます。

■その研究に取り組んだきっかけをお教えてください。

平成4年に医学部を卒業後、平成8年に消化器内科を専攻するようになりました。私は大学院には進学せず、臨床を続けながら免疫学の基礎研究に取り組むことになりました。しかし研究は思うように進まず、上司からの評価も低かったため、「腐った気持ち」で研究を続けるような状況が続いていました。その中で、自分が大学にいる意義を見出そうと、患者情報を収集する臨床研究を始めるようになりました。あるとき、研究の過程で臨床データを必要とした上司から、患者情報について質問を受けましたが、カルテを確認せずとも約 10 名の患者さんの情報をほぼ正確に答えることができました。これをきっかけに、叱咤されることの多かった上司から初めて評価されるようになり、その後は「臨床研究」という仕事そのものを徐々に認めていただけるようになりました。

私の研究のエッセンスは、診療で難渋した患者さんと日常診療で生まれるクリニカルクエスションを解決し、その成果を公表することで保険適応や治療指針にも影響を与え得る研究を行うことにあります。過去には、生薬の薬事承認を目指し、基礎研究から臨床研究まで一貫して取り組んだ経験があります。探索的臨床研究の中で、病気のために仕事を続けることができなかった患者さんが、生薬の治療効果によって劇的に改善し、再び職場に戻る手助けをできたことは、研究者として非常に感慨深



い経験でした。

令和2年には、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 難治性疾患実用化研究事業として、「エビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療ポジショニングの構築」の研究が採択され、2つの多施設共同臨床研究を進めてきました。

1つ目は、急性重症潰瘍性大腸炎に対する治療に関する研究です。入院直後の第一選択治療として従来用いられるグルココルチコステロイド (GC) に加え、免疫抑制剤、生物学的製剤、低分子化合物などの Advanced therapy (AT) の治療効果を多数例で解析し、入院時のファーストラインとしての AT の有用性を世界で初めて報告しました。特に、過去に GC を使用した患者さんでは、入院後に GC 以外の生物学的製剤を選択した方が、治療成績が優れることを明らかにし、入院後治療の新たな治療アルゴリズムを構築しました。このアルゴリズムは国際誌の表紙に掲載される成果となりました。

2つ目は、生物学的製剤未使用例を対象に、3種類の生物学的製剤の短期治療効果と安全性を比較する多施設共同無作為化比較試験 (RCT) です。複数の生物学的製剤を同時に比較する RCT は海外でも例が少なく、本研究は世界で初めての試みとなりました。

COVID-19 の影響で症例登録には制約がありましたが、3製剤間に明らかな有効性の差がないこと、治療法によって奏功に寄与する因子が異なることなど重要な知見を得ることができました。本研究成果は全米消化器病学会で口頭発表に採択され、多くが企業主導のフェーズ



III 治験である中、医師主導の多施設共同研究が唯一選ばれた点は大きな意義があったと考えています。

これらの成果は本学からプレスリリースとして発信され、複数のメディアでも取り上げていただきました。社会に向けて研究成果を還元できたことは、研究者として大きな励みとなりました。

■取り組まれている研究テーマに関して、今後の展望などがございましたら教えてください。

AMED よりご支援をいただき、3つの英文原著論文を公表することができました。しかし国際的な一流誌への掲載には至らず、力不足を痛感しております。同時に、質の高い研究には症例数の集積が不可欠であることを改めて認識いたしました。本学に赴任して6年が経ち、関西圏の多くの先生方と交流を深める機会が広がってまいりました。今後は、若手教室員を中心に、関西から質の高い多施設共同研究を発信できるようサポートしていきたいと考えております。

またこの数年は、免疫学や細菌学など病態に関わる基礎研究に十分に組み込んでいませんでしたが、科研費で採択された「活性化血小板をターゲットとした炎症性腸疾患バイオマーカー同定と新規治療法の開発」では、潰瘍性大腸炎重症化に血小板-単球複合体が関与しており、局所病変にも存在し潰瘍形成にも関わっていることを示しました。あまり得意でなかった基礎研究も四半世紀以上の臨床経験を経てその重要性和魅力を感じるようになってきました。今後は学内の基礎研究の先生方との連携を一層深め、臨床検体を活用した病態研究を推進していきたいと考えております。

■研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

これまで、「ピペットを握るだけが研究ではない」ということを学生・研修医・教室員の先生たちに伝えてきました。私は平成15～18年まで米国バージニア大学での留学期間に日本でできなかったマウスを用いた研究に3年間従事し、調節性T細胞の研究に没頭した経験があります。その中で、今回ノーベル賞を受賞された坂口志文先生の仕事が、免疫学の世界にどれほど大きな影響を与えたのかを、まさに肌で感じてきました。基礎研究には、言葉では言い表せないほどの大きな魅力と深い楽しさがあります。

一方で私はこれまで、より患者さんの近くにある研究にも強く惹かれていました。指導する立場となった今、

医師・研究者それぞれが興味を持つ分野は異なっても当然であり、その「多様性」を大切にしたいと考えています。医学部6学年の病棟実習の最後には、自らが経験してきた研究の意義や面白さを伝えることを続けています。学生や若手の先生方にとって、研究の価値を理解することは決して容易ではありません。しかし、医師という選ばれた立場にあるからこそ、社会に貢献する一つの形として、一度は研究に触れてほしいと思います。

「患者さんがよりハッピーな生活を送るために、私たちにできることは何か」私はいつもその事を考え研究をしてきました。その答えは一つではありません。通常の診療以外にも基礎研究、臨床研究、地域医療、教育など、さまざまなアプローチがあります。後輩の先生方には、自分の興味を大切にしながら、ぜひその一歩を踏み出してほしいと心から願っています。

略歴

平成4年	慶應義塾大学医学部研修医（内科）
平成8年	慶應義塾大学医学部助手（専修医）（消化器内科）
平成15年	米国バージニア大学医学部 消化器内科 博士研究員
平成21年	東京医科歯科大学大学院 消化管先端治療学講座 講師
平成24年	慶應義塾大学医学部内視鏡センター 専任講師
平成29年	慶應義塾大学医学部内科学（消化器内科）准教授
令和2年	関西医科大学 内科学第三講座 教授
令和5年	関西医科大学附属病院 副病院長

主な獲得研究費など

平成27年 第27回日本消化器病学会奨励賞
平成28～平成30年度 基盤研究（C）インドール含有青黛生薬の炎症制御機序解明および大腸癌抑制効果の検証 研究代表者
令和元年～令和3年度 基盤研究（C）治療最適化を目指した潰瘍性大腸炎患者の腸内細菌・口腔内細菌叢の解析 研究代表者
令和4～令和6年度 基盤研究（C）活性化血小板をターゲットとした炎症性腸疾患バイオマーカー同定と新規治療法の開発 研究代表者
令和2～令和4年度 日本医療研究開発機構（AMED）難治性疾患実用化研究事業の診療に直結するエビデンス創出研究「エビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療ポジショニングの構築」 研究代表者

所属学会（役職／資格等）

日本内科学会専門医・指導医・学会評議員
日本消化器病学会専門医・指導医・財団評議員
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・財団評議員
日本炎症性腸疾患学会専門医・指導医・理事
日本消化管学会・専門医・指導医・理事
日本大腸肛門病学会・専門医・指導医
日本臨床免疫学会代議員

Campus Bio-Medico University of Rome総長らが来訪

令和7年10月8日(水) 13時から、イタリアのCampus Bio-Medico University of RomeのEugenio Guglielmelli 総長らが本学を訪問しました。5月に大阪・関西万博2025イタリアパビリオンで実施されたイベントでの交流がきっかけとなり、Guglielmelli総長のほか、Sara Ramella副総長、Antonella Benvenuto事務局長が来訪。本学からは木梨達雄学長、国際化推進センター友田幸一センター長、医工学センタージュセッペ・ペッツォッティセンター長、大学院医学研究科教務部人見浩史部長が出席し、枚方キャンパス医学部棟13階第1応接室において両大学の紹介と情報交換が行われました。その後、附属光免疫医学研究所やシミュレーションセンターなどを

見学しました。



情報交換後の集合写真

保護者会懇談会を開催 3学部それぞれで教職員と保護者が情報交換をする場を設けました。

名 称	慈仁会全国懇談会
日時・場所	令和7年10月19日(日) 13時～ 枚方キャンパス医学部棟
参加者	慈仁会道浦拓委員長、金子一成副学長・医学部長、教務部岡田英孝部長・副学長、学生部谷川昇部長、各学年クラスアドバイザー、保護者等
内 容	挨拶および現況報告、個別懇談会(対象者のみ)

医

名 称	看護学部保護者懇談会
日時・場所	令和7年11月1日(土) 10時～ 枚方キャンパス看護学部棟
参加者	三木明子学部長補佐、教務部李錦純部長、学生部大橋敦部長、国試対策委員会白井由紀副委員長、各学年担任、各学年チューター、保護者等
内 容	学修の進捗状況および学生生活・国試対策について、各学年状況報告、個人面談

看

名 称	リハビリテーション学部保護者懇談会
日時・場所	令和7年11月1日(土) 11時～ 牧野キャンパスリハビリテーション学部棟
参加者	飯田寛和学部長、理学療法学科市橋則明学科長、作業療法学科種村留美学科長、教務部池添冬芽部長、学生部吉村匡史部長、臨床実習委員会・キャリア支援委員会野村卓生委員長、保護者等
内 容	全体会(学部長・学科長挨拶、学生部・教務部・臨床実習委員会・キャリア支援委員会報告)、茶話会、メンターとの個別面談

リ

看護学部生による健康講座

看

令和7年10月10日(金)10時から、枚方市立総合福祉会館ラポールひらかたで開催されたラポール福祉(いきいき)講座健康体操教室において、本学看護学部4年次生による健康講座が行われました。講座は10月10日(金)、17日(金)、24日(金)の3日間にわたって行われ、この日のテーマは「認知症予防について」でした。

講演では、加齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違いや、認知症の予防方法などがクイズを交えた形式で紹介され、認知症の正しい知識を伝える良い機会となりました。聴講した参加者からは質問が寄せられるな

どテーマに対する関心の高さがうかがえました。



看護学部生による講演の様子

子ども大学探検隊

リ

令和7年12月6日(土)10時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において「からだところのひみつ基地探検隊」をテーマに「子ども大学探検隊」が実施されました。これは枚方市内在住および在籍の小学生を対象とした事業で、今年度は16名が参加しました。

当日はリハビリテーション学部飯田寛和学部長の挨拶の後、参加者はグループに分かれて2つのブースを体験。神経体験ブースでは「からだに流れる電気は新幹線よりもはやい？」をテーマに、神経に電気刺激を与えて身体が動く実験を通して、神経細胞のはたらきを学びました。また生活達人ブースでは「からだを脳みそへのいじわるに耐え抜け！」をテーマに、視覚障害ゴーグルや腕に重りを装着して高齢者の負担を疑似的に体験することで、リハビリテーションの必要性を学びました。

最後は、各ブースを担当したりハビリテーション学部理学療法学科前澤仁志准教授、作業療法学科砂川耕作講師、同宮原智子助教から講評があり、参加者それぞれに受講証が手渡され、プログラムは終了しました。



神経体験ブースの様子

医療ニーズ発表会

令和7年11月27日(木)17時から、関医タワー3階会議室において、今年で8回目となる「医療ニーズ発表会」が開催されました。これは学内教職員から募った医療ニーズを、その新しさ・技術の難易度・商品性等の観点から選抜し全国の製販企業に向けて発信するもので、産学連携による医療ニーズの社会実装化の取り組みです。齋藤貴徳産学知財・社会貢献担当副学長(整形外科科学講座教授)と一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ柏野聡彦副理事長の挨拶に続き、イノベーション・ベンチャー推進室産学・知的財産部門佐々木健一部門長が本発表会の趣旨や本学の概要を説明。その後、過去の医療ニーズ発表会がきっかけで上市にいたったシステムの医療ニーズ提案者である医学部呼吸器外科学講座齊藤朋人講師と関連企業の表彰が行われました。その後は応募されたニーズの中から、選抜された25件について発表が行われました。



表彰の様子



令和6年度「学生からの教育評価」

本学では、教員の教育活動を奨励しその資質の向上を図ることを目的として、学生による教育評価アンケートを実施しています。令和7年12月1日(月) 17時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、表彰者を対象に「令和6年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。令和6年度表彰の対象となった講義の教員に木梨達雄学長から表彰状が手渡されました。

令和6年度の教育評価アンケートの結果、次の講義・教員が高い評価を得ました。



表彰式の集合写真

●医学部「教育奨励賞」

【科目部門】

教養・基礎統合コース

1 位	生体の構造と機能 P2b (2) (2 学年)
2 位	健康科学 A1 (1 学年)
3 位	生体の構造と機能 P2b (1) (2 学年)

臓器別系統別コース

1 位	内科総論 (3 学年)
2 位	救急・中毒 (3 学年)
3 位	外科総論 (3 学年)

臨床実習科目

1 位	呼吸器腫瘍内科学 (5 学年)
2 位	整形外科科学 (5 学年)
3 位	麻酔科学 (5 学年)

【教員部門】

1 学年

1 位	黒瀬 聖司 (健康科学センター)
2 位	志田 有子 (心療内科学講座)
3 位	岡野 圭子 (生物学講座)

2 学年

1 位	小池 太郎 (解剖学講座)
2 位	岩下 洸 (解剖学講座)
3 位	佐藤 勇輝 (解剖学講座)

3 学年

1 位	西澤 徹 (内科学第一講座)
2 位	池側 均 (救急医学講座)
3 位	尾崎 吉郎 (内科学第一講座)

4 学年

1 位	八木 正夫 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)
2 位	梅垣 岳志 (麻酔科学講座)
3 位	小原 久未子 (衛生・公衆衛生学講座)

●医学部「教育努力賞」

教養・基礎統合コース 人間と社会 A1 (1) (1 学年)

●看護学部「教育奨励賞」

【講義部門】 1 位	診断治療論
【演習部門】 1 位	ヘルスアセスメント
【実習部門】 1 位	在宅生活援助論実習 II

●リハビリテーション学部「教育奨励賞」

【基礎教養科目部門】

1 位	中国語
2 位	情報処理技術
3 位	倫理学

【専門基礎科目部門】

1 位	リハビリテーション概論
2 位	救急医学
3 位	臨床栄養学

【専門科目部門】(理学療法学科)

1 位	理学療法概論
2 位	スポーツリハビリテーション学
3 位	地域理学療法学

【専門科目部門】(作業療法学科)

1 位	精神障害作業療法治療学
2 位	作業療法評価学概論
3 位	高次脳機能障害作業療法演習

●リハビリテーション学部「教育努力賞」

【専門基礎科目部門】

国際保健
がんリハビリテーション学

【専門科目部門】(理学療法学科)

高齢者理学療法学
リハビリテーション工学演習
義肢装具学演習
画像評価学演習 (理学)
運動器理学療法学演習
理学療法評価学演習 II
理学療法管理学
呼吸循環代謝理学療法学演習
神経理学療法学演習
理学療法研究論
身体機能解析学演習

【専門科目部門】(作業療法学科)

基礎作業学実習 II

※敬称略、掲載情報は開講当時

リハビリテーション学部理学療法学科市橋学科長が厚生労働大臣表彰

令和7年10月10日(金)、東京プリンスホテル(東京都港区)で開催された公益社団法人日本理学療法士協会創立60周年記念式典・祝賀会において、理学療法業務功労者厚生労働大臣表彰が執り行われ、リハビリテーション学部理学療法学科市橋学科長の市橋則明教授が受賞しました。本賞は、多年にわたり理学療法の発展に尽力した功績が認められた個人に贈られるもので、10年に一度の記念式典において表彰が行われます。

【コメント】このたび、理学療法業務功労者として厚生労働大臣表彰を賜り、大変光栄に存じます。今回の受賞は、多くの方々から頂いたご指導とご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。今後も、理学療法の学術的貢献につながる研究の推進と次世代を担う理学療法士の育成に一層努めるとともに、関西医科大学リハビリテーション学部の充実に寄与してまいります。



病院

文部科学大臣表彰

令和7年度医学教育等関係業務功労者に附属病院リハビリテーション科金光浩副技師長と総合医療センター看護部西條和子看護師が選ばれ、文部科学大臣表彰を受けました。

同省では、国立、公立および私立の大学における医学・歯学に関する教育研究または患者診療などに係る業務に関し、顕著な功労のあった者を讃えることで、関係職員の士気を高揚し、もって医学または歯学教育の充実向上を図ることを目的として大臣表彰を行っています。今回の2名は長年の勤労や後進の育成に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。



金光技師長



西條看護師

第22回医療安全大会

本学の各附属病院における医療安全に関する取り組みを共有し、医療安全意識の向上を図ることを目的に、今年度もオンデマンド形式にて医療安全大会を公開します。

期 間：令和7年12月1日(月)～令和8年3月31日(火)

テーマ：「身体拘束」

内 容：1)「身体拘束を考える～適切な行動制限の実施に向けて～」総合医療センター精神神経科 船槻 紀也 助教
香里病院総合診療科 石丸 裕康 部長
2)「当院における身体拘束の現状と課題」
香里病院看護部 伊藤 美由紀 管理師長

大学・病院

災害訓練特集

令和7年11月5日(水) 13時15分から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟およびグラウンドで、学生参加型の防災訓練が行われました。学生・教職員ら129名が参加し、水消火器による消火操作方法や安否確認の訓練が行われました。

また、令和7年11月10日(月) 13時10分から枚方キャンパス看護学部棟において、「災害対応シミュレーション演習」が実施され、4年次生が附属病院の現役DMAT隊員とともに、災害による多数傷病者のトリアージや、災害現場での傷病者の応急処置などの対応を学びました。学生たちは、短い時間で治療や搬送の優先順位を判断するための指導を受け、災害時に求められる判断力や対応力を養いました。



トリアージ演習を行う看護学部生

令和7年11月15日(土)には、附属病院、総合医療センター、香里病院で災害訓練が行われました。

【附属病院】

今回の訓練は枚方市内で震度7の地震が発生したと想定して実施され、発災後すぐに院内災害対策本部を設置。集まった職員らがトリアージポスト、赤・黄・緑・黒の各ゾーンにそれぞれ配置され、搬送されてきた傷病者のトリアージや処置、傷病者家族らへの説明に真剣な面持ちで取り組みました。訓練終了後の反省会では、訓練での対応について、良かった点や改善点などが共有されました。



トリアージの様子

【総合医療センター】

杉浦哲朗病院長を本部長とした災害対策本部が設置され、診療指揮、ロジスティクス、外部調整、医療ニーズ、記録・連絡の5班に分かれて訓練を実施しました。臨床講堂では、病棟の医師や看護師により災害時の患者受入を目的に、受入病床の確保や患者移送の机上訓練が行われました。また机上訓練終了後、搬送用器具を使用した階段での垂直移送訓練が行われ、実際の移送における課題などを共有する場となりました。



移送訓練を行う参加者

【香里病院】

第2回目となる災害訓練で、65名の教職員が訓練に参加しました。1階食堂に災害対策本部が設置され、災害対策本部長である岡崎和一病院長の指揮のもと訓練が進行しました。訓練参加者は、付与された任務ごとに班に分かれ、災害対策本部の運営および連携、院内火災の初期消火、院内負傷者の救護、トリアージ、救急車搬送など、災害時の初期活動を実働形式で体験しました。また、水消火器による消火活動や地下水浄化システムなどの設備見学を実施し、職員の災害に対する意識強化につながる訓練となりました。



搬送訓練の様子

附属病院

市民公開講座

令和7年10月4日(土) 13時から、附属病院13階講堂、合同カンファレンスルームにおいて「心不全」をテーマに市民公開講座が開催され、154名が来場しました。

松田公志病院長の挨拶後、司会の山本真有子看護師が講座の目的および生活習慣病と心不全の概要について説明。続いて、循環器内科諏訪恵信助教が「いつの間にか心不全の仲間入り?! 生活習慣病から心不全発症の軌跡」のテーマで心不全のステージ別の症状の解説、進展予防などを講演しました。その後は、石田千尋管理栄養士による「今日からできる!心臓を守るための食事療法」、間野直人理学療法士による「“まだ大丈夫”は通用しない、心不全予防軍のあなたが今しなければならない運動とは?」、宇都宮敦子薬剤師による「その薬ちゃんと飲

めていますか?～薬との付き合い方で変わる心臓の未来～」、掛田友香理看護師による「心不全発症に早く気づく5つポイント」の4題が講演されました。

参加者は熱心に聞き入っており、盛会のうちに終了しました。



石田管理栄養士による講演の様子

附属病院

いきいき健幸フェス

令和7年10月18日(土) 10時から、川村義肢株式会社大東本社(大東市)においていきいき健幸フェスが開催され、医学部放射線科学講座中村聡明診療教授がラジオ出演およびセミナーの講師を務めました。

これは四條畷保健所や各種企業が共催して行う健康に関するイベントで今回が初めての実施となります。イベント会場には肺・骨密度・体成分などの測定や公開ラジオ収録、デジタル・トレイルメイキングテスト体験などのブースが設置され、来場者がヘルスリテラシーについて学ぶ様子が見られました。

ラジオ公開収録には中村診療教授、四條畷保健所所長などが出演し、がん啓発における本学と保健所の連携や関西医科大学附属病院の取り組みについて語りました。

その後行われたセミナーでは「がんの最新情報と今日からできるがん予防」と題して講演。講演後は多数の質問が寄せられヘルスケアに関する関心の高さがうかがえました。



ラジオ出演中の中村診療教授

総合医療センター

糖尿病デーフェスタ2025

令和7年11月15日(土) 14時から総合医療センター本館1階において、「世界糖尿病デーフェスタ2025 防ごう! 知ろう! 糖尿病! ～守ろう! あなたの大切な腎臓～」が開催され、患者さんやそのご家族など34名が来場しました。腎臓内科菊池早苗診療講師による「知って安心! 糖尿病と腎臓の関係」と題した講演、健康科学センター久保田眞由美健康運動指導士による運動実演が行われました。そのほかにもインスリン体験、血糖測定、医師相談、栄養展示などのコーナーが設けられ、熱心に説明を聞いたり体験に取り組んだりする参加者の姿が見られました。



インスリン注射を体験する参加者



香里病院

日曜乳がん検診(ピンクリボン)

令和7年10月19日(日)9時から香里病院乳腺センターにおいて、日曜乳がん検診が実施されました。これは、子育て・介護・仕事・家事などで多忙な平日を過ごす女性が日曜日に乳がん検診を受けられるようにとの意図で、認定NPO法人J.POSHが取り組む「J.M.S®: ジャパン・マンモグラフィー・サンデー (毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくり)」に賛同し、香里病院で平成23年から実施しているものです。当日は寝屋川市民他24名が受診しました。



担当者集合写真



卒後臨床研修センター

医師および歯科医師臨床研修プログラムフルマッチ

令和7年10月23日(木)、医師臨床研修マッチング協議会により医師臨床研修マッチング結果が公表され、令和8年度採用者が確定しました。附属病院および総合医療センターの研修プログラムはともに今回も100%のフルマッチとなりました。これは、同8月5日(火)および8月12日(火)、枚方キャンパスにおいて行われた「令和8年度臨床研修医採用試験」の結果を受けてのものです。附属病院は11年、総合医療センターは17年連続でのフルマッチとなりました。

また、同10月22日(水)、歯科医師臨床研修マッチングプログラムから歯科医師臨床研修マッチング結果が公表され、こちらも5年連続100%フルマッチとなりました。これは同8月16日(土)に附属病院で行われた「令和8年度研修歯科医採用試験」の結果を受けてのものです。



看護キャリア開発センター

第9期関医・看護師リカレントスクール

令和7年10月から12月まで、第9期関医・看護師リカレントスクールが開講されました。同10月1日(水)10時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において挙行された入校式には、受講する11名が臨みました。教職員9名が臨席する中、同スクール金子一成スクール長からの式辞に続き、受講生代表の挨拶が行われました。およそ2カ月の開講期間では、医師、専門・認定看護師によるリモート講義や、シミュレーションセンターでの最新の機器を使った演習、附属4病院の訪問看護ステーションでの実習など、看護師への復職を支援するためのプログラムが実施されました。また、今期は新たな取り組みとして、北河内メディカルネットワーク参加医療機関7施設と関医訪問看護ステーション4施設による就職説明・相談会を実施し、受講生が多様な医療機関の情報を得たり、相談できる機

会を設けました。同12月3日(水)には修了式が行われ、受講生一人ひとりに金子スクール長から修了証書が手渡されました。修了生の挨拶ではスクールへの感謝や今後の抱負が述べられ、臨席した関係教職員からも励ましの言葉が送られるなど和やかな雰囲気のなかで、スクールが開講しました。



シミュレーションセンターでの演習の様子

医師のキャリアに関する講義

令和7年11月19日(水) 12時50分から枚方キャンパス医学部棟1階第1講義室において、医学部1学年を対象とした医師のキャリアに関する講義が実施されました。これは、「医療プロフェッショナリズムの実践A1」の授業の一環として行われたもので、はじめにオール女性医師キャリアセンター運営委員である放射線科学講座河野由美子講師が総論講義を実施。続いて、女性医師奨励賞(アプリコット賞)受賞者の医学部神経内科学講座村上綾病院助教、女性医師活躍推進賞(アプリコットサポート賞)受賞団体である小児科学講座代表者の野村直宏医師が、留学や育児休業取得の経験など自身のキャリアを振り返りながら講演しました。聴講した学生から質問が寄せられるなど関心の高さがうかがえました。



河野講師による講義

「THE世界大学ランキング2026」 関西圏の私立大学で1位タイに

英国の教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)」による世界大学ランキング2026で、本学は『1201-1500』位にランクイン。関西圏の私立大学では1位タイとなりました。

Teaching (教育)、Research environment (研究環境)、Research quality (研究の質)、International outlook (国際性)、Industry (産業)の5分野13項目で評価された総合ランキングとなっています。

本学教職員編著作物の紹介

令和7年1月～12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。 ※判明分のみ

●『緩和ケアにおける悩ましい感情のひも解き方 Difficult Patient』

医学部心療内科学講座 蓮尾 英明 教授 他著

出版：メジカルビュー社 印刷版ISBN：978-4-7583-2243-0 発行：令和7年3月

●『臨床研修医のキャリアデザイン』

教育センター 西屋 克己 センター教授 監修

出版：フジメディカル出版 ISBN: 978-4-86270-257-9 発行：令和7年3月



学会賞等受賞情報

令和7年9月～12月の学会賞受賞者等を紹介します。

優秀発表賞

医学部精神神経科学講座 嶺北 佳輝 診療教授

■テーマ ①統合失調症におけるパリペリドンパルミチン酸エステル3ヵ月製剤の治療継続率と臨床転帰：製造販売後調査の事後解析
②統合失調症およびうつ病を合併する慢性便秘症患者を対象としたエロピキシパットの安全性と有効性—特定使用成績調査結果より
■授与団体 BPCNPNP2025

このたびは第47回日本生物学的精神医学会、第35回日本臨床精神神経薬理学会、第55回日本神経精神薬理学会(BPCNPNP2025合同年会)で栄誉ある優秀発表賞を2演題で受賞することができ、大変光栄に思っております。再解析を通じて、パリペリドン3ヵ月製剤の治療継続率に関連する因子(パリペリドン3ヵ月製剤用量)、エロピキシパットの精神疾患を有する慢性便秘症患者における有効性及び忍容性、が明らかとなりました。いずれも他にないビッグデータを再解析した成果であり、今後も向精神薬研究を通じ、患者さんの症状改善と社会復帰に寄与できるよう研鑽を続けてまいりたいと思います。



Best of Oral Abstracts

医学部呼吸器腫瘍内科学講座 池田 慧 准教授

■テーマ A Nationwide Study on Driver Mutation Testing and Targeted Therapies in NSCLC patients with comorbid Interstitial Pneumonia
■授与団体 2025 Asia Conference on Lung Cancer
ベトナムで開催された同国際学会にて、研究事務局として主導した多施設共同研究の成果を発表し、「Best of Oral Abstract」を受賞いたしました。治療選択肢が限られ予後不良な間質性肺炎合併肺がんにおける遺伝子検査と治療の重要性を示した本研究は、その規模と臨床的意義の高さから大きな反響を頂きました。この国際的な評価を励みに、今後もより良い医療の提供と研究の発展に尽力いたします。



優秀演題賞

医学部胆膵外科学講座 橋本 大輔 准教授

■テーマ CA19-9高値示すR/BR腺癌に対するchemotherapy switch
■授与団体 第33回日本消化器関連学会週間(JDDW 2025 KOBE)

この度、JDDW2025KOBEにおいて優秀演題賞をいただき、大変光栄に思います。今回の発表は、切除可能・切除可能境界腺癌に対してCA19-9の変化を指標に治療を切り替える「chemotherapy switch」という新しい戦略を検討したものです。日々の臨床で感じた「もう一步よくしたい」を形にできたことを嬉しく思います。この成果が、若い先生方にも「現場発の研究は届く」と感じてもらえるきっかけになれば幸いです。最後に、里井壯平教授をはじめ胆膵外科教室の仲間の支えに心より感謝いたします。



Paul K. Nakane AHC Award 2025

医学部解剖学講座 小池 太郎 講師

■テーマ "A Device for Ribbon Collection for Array Tomography with Scanning Electron Microscopy"

■授与団体 第66回日本組織細胞化学学会総会・学術集会

Array Tomographyは、何百枚もの連続超薄切片を基板に回収し、電子顕微鏡で撮影することで、三次元的な超微細構造を観察する手法です。これまでは高額な専用装置による切片回収方法が一般的でしたが、本論文では安価で自作可能な切片回収装置を紹介しました。本装置を用いて作製した試料からは、細胞や細胞内小器官の立体再構築に加え、免疫染色との併用も可能です。本研究は、三次元超微細構造解析をより身近にし、幅広い分野への応用が期待されます。本研究の遂行にあたりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



優秀演題賞

医学部肝臓外科学講座 小坂 久 講師

■テーマ 多施設共同リアルワールドデータに基づく切除不能胆道癌に対する3剤併用薬物療法とコンバージョン手術を基軸とした集学的治療の現況
■授与団体 第33回日本消化器関連学会週間(JDDW 2025 KOBE)

このたびの優秀演題賞は、切除不能胆道癌患者さん約1,000名の詳細な臨床データを国内多施設から体系的に集積し、三剤併用療法の実臨床での効果とコンバージョン手術の到達可能性を明確に示した点を高く評価いただいたものです。治療成績を腫瘍縮小効果や手術到達率、生存アウトカムの観点から統合的に解析し、治療選択の実践的指針となるエビデンスを提示できました。本研究にご協力いただいた全国の先生方に心より感謝申し上げます。



優秀論文賞

医学部整形外科科学講座 石原 昌幸 講師

■テーマ UIVにおけるフレキシブルスクリューの使用はPJFを予防できるか？—成人脊柱変形手術の新たな可能性—

■授与団体 第32回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会

このたび、第32回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会において優秀論文賞を賜り、大変光栄に存じます。日頃よりご指導・ご支援を賜っております齋藤教授をはじめ、医局の先生方、ならびに共同研究者の皆様により御礼申し上げます。受賞論文「UIVにおけるフレキシブルスクリューの使用はPJFを予防できるか？—成人脊柱変形手術の新たな可能性—」では、成人脊柱変形矯正手術における最大の課題である近位隣接椎間障害(PJF)に対し、上位固定椎(UIV)にフレキシブルスクリューを使用することでsemi-rigidな固定を実現し、その予防効果を検討いたしました。本研究が、成人脊柱変形手術における新たな戦略の一助となることを期待しております。



優秀演題賞

医学部整形外科科学講座 石原 昌幸 講師

■テーマ OLIF51適応における血管走行の新たな評価基準—CIVvascular windowおよび楕円形率の重要性—

■授与団体 第12回日本前方側方脊椎手術学会

このたび、第12回日本前方側方脊椎手術学会において優秀演題賞を賜り、大変光栄に存じます。日頃よりご指導・ご支援を賜っております齋藤教授をはじめ、医局の先生方に心より感謝申し上げます。受賞演題「OLIF51適応における血管走行の新たな評価基準—CIV vascular windowおよび楕円形率の重要性—」では、腰仙移行部に対する低侵襲前方固定術であるOLIF51の適応判断において、血管走行の形態評価をどのように位置づけるべきかを検討いたしました。本研究が、OLIF51術式の安全かつ的確な適応決定に寄与する指標の一助となることを期待しております。



日本泌尿器腫瘍学会第11回学術集会奨励賞

医学部腎泌尿器外科科学講座 佐野 剛規 講師

■テーマ 上部尿路上皮癌診断目的の尿管鏡検査は水腎症がない症例の膀胱内再発リスクを増大させる

■授与団体 日本泌尿器腫瘍学会 第11回学術集会

この度、関西医科大学を含む多施設が参加したデータベース研究にて泌尿器腫瘍学会学術集会奨励賞をいただきました。多数の医師が忙しい中データを集め、質の高いデータベースを構築してくださったことが受賞に至った大きな要因であり、ここに感謝申し上げます。今後も本学から意義のある発信ができるよう頑張りたいと思います。



Young investigator award

総合医療センター歯科・口腔外科 坂本 由紀 講師

■テーマ Respiratory and airway changes after partial mandible resection and plate reconstruction of MRONJ: Case reports of two cases

■授与団体 第70回国際外科学会

この度、国際外科学会においてYoung investigator awardを受賞する栄誉に預かりました。受賞研究「Respiratory and airway changes after partial mandible resection and plate reconstruction of MRONJ: Case reports of two cases」では、薬剤関連顎骨壊死の治療における下顎骨切除・再建後の呼吸・気道変化に関する重要な知見を示すことができました。この成果を今後の臨床・研究活動に活かしてまいります。



優秀演題賞

医学部下部消化管外科科学講座 五十嵐 優人 助教

■テーマ 直腸癌手術におけるSPY-QP蛍光評価ソフトウェアを使用した腸管血流の定量的評価のアルゴリズム

■授与団体 第33回日本消化器関連学会週間(JDDW 2025 KOBE)

優秀演題賞に選ばれ大変光栄に思います。本研究は、SPY-QP蛍光評価ソフトウェアを用いて腸管血流を定量的に解析し、吻合部血流評価の客観化を目指すものです。ご指導・ご助言を賜りました渡邊教授、共同研究者の皆様へ深く感謝申し上げます。今後も安全で再現性の高い大腸癌手術の実現に向けて、研究を発展させてまいります。





優秀演題賞

附属病院 松永 修人 臨床研修医

■テーマ グルココルチコイドを休薬可能であった抗MDA5抗体陽性皮膚筋膜炎の一例

■授与団体 第34回日本リウマチ学会近畿支部学術集会

このたび、第34回日本リウマチ学会近畿支部学術集会にて優秀演題賞を頂き、大変うれしく思います。私はまだまだ未熟ではありますが、ご指導いただいた先生方のおかげで今回の受賞につながりました。来年から膠原病内科で新たな一歩を踏み出す身として、今回の経験を励みに、より一層成長できるよう努力してまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



日本泌尿器腫瘍学会第11回学術集会奨励賞

医学部腎泌尿器外科科学講座 中本 喬大 大学院生

■テーマ HMGA2は淡明細胞型腎細胞癌の形態学的進化・微小環境動態と全身治療反応に関連づける

■授与団体 日本泌尿器腫瘍学会 第11回学術集会

この度、日本泌尿器腫瘍学会第11回学術集会学術集会奨励賞を受賞し、大変光栄に思います。ご指導いただきました当科吉田崇先生、木下秀文教授、ならびにその他諸先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本受賞を励みに、さらなる研究への邁進と臨床への還元に一層努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



Young Investigator Award at the Asia-Pacific Hepato-Biliary-Pancreatic Association 2025 (APHBPA) in Bangkok, Thailand

International student, Department of Hepatobiliary Surgery Lai Thanh Tung

■テーマ Laparoscopic versus open sectionectomy and bisectionectomy for hepatocellular carcinoma

■授与団体 Asia-Pacific Hepato-Biliary-Pancreatic Association 2025 (APHBPA)

アジア・オセアニア地域の肝胆脾外科領域における最大規模の学会において、若手研究者賞を受賞できたことを大変光栄に思います。海堀教授ならびに肝臓外科学の先生方のご指導に心より感謝いたします。腹腔鏡下肝切除術は、その有用性が認められていますが、従来からの報告に加え、肝細胞癌に対する区域切除および二区域切除において、術後感染を抑制し、組織侵襲を最小限に抑えることで、より良好な予後につながることを詳細に示しました。



優秀演題ポスター発表賞

看護学部老年看護学領域 伊坪 恵 助教

■テーマ 地域密着型実習における学生の学びと地域への波及効果(第1報)-学生が捉えたパートナーシップとは-

■授与団体 第45回日本看護科学学会学術集会

令和6年度KMU看護学部研究コンソーシアム助成を受けて行った研究の成果を第1報から第4報でまとめ、学生のレポート分析の第1報が受賞となりました。研究対象の実習は地域を訪れ、最終的には住民とともに健康づくりにとりくむ4年間の実習です。領域横断での担当教員、学生、地域住民三者でつくりあげる実習での学びが見える化され、関心をもっていただけました。この実習および研究に関わってくださった皆様に感謝申し上げます。



若手優秀演題口頭発表賞

看護学部慢性疾患看護学領域 水野 光 助教

■テーマ Nursing Practice Abilities in the Assessment of Inflammatory Bowel Disease Activity

■授与団体 第45回日本看護科学学会学術集会

炎症性腸疾患(IBD)は患者数が年々増加し、あらゆる療養の場で看護師は患者さんと関わる機会が増加すると考えられます。本研究はIBDがある人と関わる看護師には、どのような看護実践能力が必要かを探索した研究です。今後は本研究成果を、量的検証で測定可能なツールへと開発を目指し、看護師自身の能力を可視化できるよう汎用性を高め、社会への実装を目指していきます。本受賞を糧に、研究者としてさらなる研鑽を積んでまいります。



ベストポスター賞

大学院看護学研究科基礎看護分野看護学教育領域博士前期課程1年 図子 博美 大学院生

■テーマ 特定行為研修修了者の現任教育ニーズに関する文献検討

■授与団体 日本ヒューマンヘルスケア学会第8回学術集会

特定行為研修修了者は、継続的な指導や自律的な学びの支援を教育ニーズとすることに加え、実践することへの心理的重圧を抱えていることがわかりました。この結果から、修了者の現任教育に、技術指導や学習支援だけでなく、心理的サポートが組み込まれることが期待されます。本研究の知見に基づき、修了者の成長を支え、質の高い看護実践に貢献できるよう、教育体制の構築に向けた研究に邁進してまいります。



優秀演題賞

医学部心療内科学講座・研究員/附属病院緩和ケアセンター 佐久間 博子 師長

■テーマ がん患者のアドバンス・ケア・プランニングにおける地域共有情報の認識：職種および施設別比較

■授与団体 第38回日本サイコオンコロジー学会総会

本研究は、北河内がん診療ネットワーク協議会緩和ケア部会で3年前から進めてきた、地域の緩和ケア課題を検討する取り組みの中から生まれました。治療期と療養期の医療者が重視するACP情報の違いという現場の気づきを出発点に、多施設・多職種の皆様にご参加いただき得られた成果です。今後は、本結果を踏まえて地域の情報共有体制の整備をさらに進めてまいります。ご協力くださった皆様、ならびにご支援いただいた附属病院緩和ケアセンター、看護部に深く感謝申し上げます。



優秀演題口演発表賞

看護キャリア開発センター 辻田 幸子 師長

■テーマ 急性期病棟における看護師と看護補助者の協働のための看護師長の看護管理実践

■授与団体 第45回日本看護科学学会学術集会

この度、第45回日本看護科学学会学術集会優秀演題口演発表賞をいただき、大変嬉しく思っています。本研究は、看護師不足を背景に看護師と看護補助者の協働が推進されながらも、課題が多く報告されているなか、協働推進のための看護師長の看護管理実践を明らかにした質的研究です。看護補助者との協働は、今の看護提供になくてはならないものになっています。今後も、患者への看護提供に寄与する研究に取組んでまいります。



優秀演題賞

くずは病院リハビリテーションセンター 森井 裕太 副技師長

■テーマ 人工膝関節置換術直後の体組成変化：術後2週間のPhase Angle解析

■授与団体 第12回サルコペニア・フレイル学会大会

このたび、第12回日本サルコペニア・フレイル学会において優秀演題賞を受賞いたしました。本研究では、人工膝関節置換術後の急性期における筋質変化を、Bioelectrical Impedance AnalysisのPhase Angleを用いて日単位で解析しました。臨床現場での早期回復支援に役立つ評価指標の確立を目指し、今後も研究を進展させてまいります。



ポスターセッション賞

関医デイケアセンター・くずは 横山 広樹 副主任

■テーマ 親和動機測定尺度の要介護高齢者版の開発—集団介入の適用判断に向けて—

■授与団体 第12回日本地域理学療法学会学術大会

今回、受賞に至った研究内容は、集団運動などの他者交流を好む特性を評価する質問表を開発した内容となります。通所リハビリテーションや通所介護で集団運動の取り組みが実施されており、近年、健康行動への有用性が報告されています。しかし、全ての方に適用できる介入ではないため、多くの方々のご協力のもと、集団の適用性を判断することができる質問表を開発しました。ご協力していただいた方々に深く感謝申し上げます。





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。（主に令和7年10月1日～12月31日 ※判明分のみ）

■ テレビ等

医学部内科学第二講座 高木 雅彦 診療教授	ラジオNIKKEI 「ドクター・ハート&ストーリー」 (10月9日)	高木診療教授が番組出演し、致死性の不整脈を引き起こすことで突然死の原因となるブルガダ症候群について検査方法や発症リスク、予防方法、治療方法を解説しました。
医学部内科学第二講座 高木 雅彦 診療教授	ラジオNIKKEI 「ドクター・ハート&ストーリー」 (10月16日)	高木診療教授が番組出演し、自身が理事・評議員を務める日本不整脈心電学会について植え込み型デバイスや不整脈診療に関する活動内容を紹介しました。
関西医科大学	NHK 「ドキュメント20min.」 (10月19日)	本学2期卒業生で日本最高齢の賀川滋子先生に関する特集で、本学提供資料が放送中で使用されました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ 「ドットコネクト」 (11月1日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、感染が拡大しているインフルエンザに関し、感染対策や感染リスクを解説しました。
附属病院 木梨 達雄 学長 松田 公志 病院長 清水 俊雄 教授 齋藤 貴徳 広報担当理事	テレビ大阪 「やさしいニュース」 (11月11日)	本学と米国NEXT Oncology社が日本におけるドラッグラグやドラッグロスの解消に向けて、日本・アジア初の国際がん新薬治験拠点となる合同会社NEXT Oncology KMU JAPANを設立する旨を記者会見で発表したことと清水教授のインタビューが合わせて放送されました。
附属病院 木梨 達雄 学長 松田 公志 病院長 清水 俊雄 教授 齋藤 貴徳 広報担当理事	NHK大阪 「はっと関西」 (11月11日)	本学と米国NEXT Oncology社が日本におけるドラッグラグやドラッグロスの解消に向けて、日本・アジア初の国際がん新薬治験拠点となる合同会社NEXT Oncology KMU JAPANを設立する旨を記者会見で発表したことが放送されました。
医学部放射線科学講座 中村 聡明 診療教授	ホンマルラジオ (11月12日)	中村診療教授が健康に関するイベントで実施された公開収録に四條暖保健所所長とともに参加し、がんの原因となる生活習慣やその改善方法、早期発見の重要性などを語りました。
広報戦略室 清水 謙太 主任	ホンマルラジオ (11月14日)	清水主任が健康に関するイベントで実施された公開収録に参加し、がん診療連携拠点病院の体制や北河内がん診療ネットワーク協議会広報部会が発行したがんに関する絵本『笑顔のチケット』について語りました。
附属病院 女性診療科 辻 祥子 医師	NHK大阪 「はっと関西」 (11月27日)	女性アスリートの無月経の問題を取り上げた特集で、本学附属病院の女性アスリート外来を担当する辻医師のインタビューが放送されました。
医学部上部消化管外科学講座 山崎 誠 教授	NHK大阪 「ザ・ドキュメント」 (11月29日)	メダデ教会の牧師・西田好子さんの密着ドキュメンタリーで、山崎教授による本学附属病院での診察シーンなどが放送されました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ 「旬感LIVE とれたてっ！」 (12月2日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、今年のインフルエンザの特徴やAIインフル検査について解説しました。
附属病院	NHK大阪 「オール阪神・巨人 50年の漫才道」 (12月20日)	オール阪神・巨人さんの密着ドキュメンタリーで、本学附属病院での入院生活やリハビリの様子が放送されました。

■ WEBメディア等

医学部肝臓外科学講座 小坂 久 講師	日経メディカル (10月17日)	小坂講師が、第61回日本胆道学会学術集会のシンポジウム「切除不能・再発胆道癌に対する集学的治療と予後」で、GCS療法は高い腫瘍縮小効果とコンバージョン率を示したことを報告した旨が掲載されました。
附属光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	ForbesJapan (10月21日)	小林所長が大阪大学坂口志文特任教授のノーベル生理学・医学賞受賞にあたって寄せたコメントが掲載されました。
附属病院 木梨 達雄 学長 松田 公志 病院長 清水 俊雄 教授 齋藤 貴徳 広報担当理事	共同通信・埼玉新聞・新潟日報・静岡新聞・日本海新聞・中日新聞・四国新聞・西日本新聞・m3com (11月12日) CBnews (11月14日) 枚方つーしん (11月23日)	本学と米国NEXT Oncology社が日本におけるドラッグラグやドラッグロスの解消に向けて、日本・アジア初の国際がん新薬治験拠点となる合同会社NEXT Oncology KMU JAPANを設立する旨を記者会見で発表したことが掲載されました。
関西医科大学 木梨 達雄 学長	m3com (11月21日)	木梨学長の、11月17日に「Nakanoshima Gross(中之島クロス)」で開催された関西公立私立医科大学・医学部連合の10周年記念シンポジウムでの発言が掲載されました。
附属病院 松田 公志 病院長 清水 俊雄 教授	日経バイオテック (11月27日)	附属病院新薬開発科において、グローバル大手製薬企業が開発中の経口がん治療薬の世界第一症例目となる患者さんへの投与を開始したことが掲載されました。
附属生命医学研究所ゲノム解析部門 日笠 幸一郎 研究所教授	日経バイオテック (12月11日)	日笠研究所教授らが、日本人集団の遺伝的多様性を代表する3,135人の全ゲノム配列を決定し、約4,475万個の遺伝子変異を同定したことに加え、得られた情報を集約し「ヒト遺伝子多型データベース(HGVD)」として公開したことが掲載されました。

■ 新聞・雑誌等

医学部眼科学講座 盛 秀嗣 講師	読売新聞 朝刊 (10月10日)	目の愛護デー(10月10日)啓発特集で、盛講師による「緑内障」の症状や治療についての解説、積極的な検診を勧めるコメントが掲載されました。
看護学部学生 吉松 和 さん	朝日新聞 朝刊 (10月11日)	大阪・関西万博の関西パビリオンの一角で「人生最期に遺したい言葉を「いのちの木」に飾る」企画のリーダーを務めた吉松さんがインタビューを受け、本人の被災地訪問の経験や将来の展望と合わせて紹介されました。
附属病院 木梨 達雄 学長 松田 公志 病院長 清水 俊雄 教授 齋藤 貴徳 広報担当理事	日刊工業新聞 (11月12日)	本学と米国NEXT Oncology社が日本におけるドラッグラグやドラッグロスの解消に向けて、日本・アジア初の国際がん新薬治験拠点となる合同会社NEXT Oncology KMU JAPANを設立する旨を記者会見で発表したことが掲載されました。
附属病院 木梨 達雄 学長 松田 公志 病院長 清水 俊雄 教授 齋藤 貴徳 広報担当理事	読売新聞 夕刊・産経新聞 夕刊 (11月12日) 毎日新聞 朝刊 (11月23日)	本学と米国NEXT Oncology社が日本におけるドラッグラグやドラッグロスの解消に向けて、日本・アジア初の国際がん新薬治験拠点となる合同会社NEXT Oncology KMU JAPANを設立する旨を記者会見で発表したことと清水教授のコメントが合わせて掲載されました。
医学部内科学第二講座 入江 潤一郎 診療教授	大阪保険医新聞第2189号 (12月15日)	入江診療教授が、11月30日にグランキューブ大阪で行われた「第10回日常診療経験交流会」において「口内・腸内細菌の意外なお仕事～健康長寿への道～」をテーマに、糖尿病における腸内細菌の意義についての基調講演を、他の教授と共同で行ったことが紹介されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
 昨年も様々な出来事がありましたが、やはり、本学も出展した大阪・関西万博の開催が最も印象深いです。
 今年は午年なので、万事ウマくいく年になることを期待しています。
 皆様にとっても実りある一年になりますよう心からお祈り申し上げます。
 (Y)

関西医科大学広報 Vol.72

発行 学校法人 関西医科大学
 編集 広報戦略室
 〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
 FAX 072-804-2638
<https://www.kmu.ac.jp/>
 E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp
 令和8年1月30日(金)発行